

スーパーマーケット販売統計調査資料

2017 年 3 月実績 速報版(パネル 270)

2 月実績 確報版(パネル 270)

2016 年度集計 速報版

(2017 年 4 月 21 日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016 年 4 月実績よりパネル対象企業変更(275 社→270 社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮 3 部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚げ物、弁当、おにぎり、寿司、インスタペーカーリー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
		非食品		日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具
	その他		テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)	

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014 年 4 月実績よりエリア区分を 8 地方区分による 6 地方に変更

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2017年4月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2017年3月実績 速報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
総売上高	86,982,991	100.0%	100.8%	99.3%
食品合計	77,934,502	89.6%	101.2%	99.2%
生鮮3部門合計	29,817,150	34.3%	100.7%	99.0%
青果	12,290,948	14.1%	101.8%	100.3%
水産	7,876,120	9.1%	98.0%	96.3%
畜産	9,650,082	11.1%	101.6%	99.7%
惣菜	8,771,898	10.1%	102.5%	100.6%
日配	16,557,423	19.0%	101.1%	99.4%
一般食品	22,788,030	26.2%	101.3%	99.0%
非食品	6,450,635	7.4%	98.0%	97.8%
その他	2,597,900	3.0%	97.6%	97.5%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
北海道・東北地方	12,235,275	43	101.1%	100.3%
関東地方	32,371,689	73	101.8%	100.6%
中部地方	10,727,759	53	102.2%	98.4%
近畿地方	18,576,634	44	99.2%	97.8%
中国・四国地方	8,589,348	34	97.4%	97.8%
九州・沖縄地方	4,482,287	23	99.8%	98.7%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
1～3店舗	749,516	47	97.0%	97.1%
4～10店舗	3,711,021	68	98.3%	98.4%
11～25店舗	10,106,855	66	99.9%	99.8%
26～50店舗	16,488,258	46	99.4%	98.3%
51店舗以上	55,927,341	43	101.5%	99.6%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	84,697,931
総店舗数（店舗）	7,756	店舗平均月商（万円）	11,215
総売場面積（㎡）	12,797,529	売場1㎡あたり売上高（万円）	6.8

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2017年4月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2017年2月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	80,916,977	100.0%	99.0%	97.4%
食品合計	72,894,957	90.1%	99.4%	97.6%
生鮮3部門合計	27,953,590	34.5%	99.3%	97.5%
青果	11,488,706	14.2%	102.5%	100.6%
水産	7,149,323	8.8%	95.8%	94.2%
畜産	9,315,561	11.5%	98.1%	96.5%
惣菜	8,164,140	10.1%	99.9%	97.9%
日配	15,449,066	19.1%	99.0%	97.2%
一般食品	21,328,162	26.4%	99.5%	97.9%
非食品	5,669,568	7.0%	97.6%	97.5%
その他	2,352,501	2.9%	93.4%	93.9%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	11,043,451	43	98.4%	97.4%
関東地方	29,713,539	73	98.8%	98.0%
中部地方	10,014,454	53	101.3%	97.0%
近畿地方	18,089,439	44	99.2%	97.9%
中国・四国地方	8,034,027	34	99.9%	95.5%
九州・沖縄地方	4,022,067	23	96.3%	96.1%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1～3店舗	686,615	47	94.7%	94.7%
4～10店舗	3,368,183	68	95.5%	95.5%
11～25店舗	9,398,157	66	97.5%	97.3%
26～50店舗	15,180,925	46	99.1%	96.7%
51店舗以上	52,283,097	43	99.6%	97.9%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	78,203,591
総店舗数 (店舗)	7,746	店舗平均月商 (万円)	10,446
総売場面積 (㎡)	12,759,511	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.3

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2017年4月21日

日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2016年度実績（パネル270）速報版

	全店売上高（万円）	構成比	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
総売上高	1,056,248,967	100.0%	102.1%	100.1%
食品合計	940,064,340	89.0%	102.6%	100.3%
生鮮3部門合計	358,469,771	33.9%	102.4%	100.0%
青果	147,891,128	14.0%	104.4%	102.1%
水産	93,148,675	8.8%	99.9%	97.7%
畜産	117,429,969	11.1%	101.8%	99.4%
惣菜	105,168,792	10.0%	103.3%	100.8%
日配	202,685,527	19.2%	103.0%	100.7%
一般食品	273,740,249	25.9%	102.3%	100.3%
非食品	80,723,996	7.6%	99.3%	98.8%
その他	35,460,631	3.4%	96.1%	95.9%

エリア別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
北海道・東北地方	147,221,864	43	101.5%	100.2%
関東地方	387,611,346	73	102.4%	100.6%
中部地方	130,359,625	53	103.3%	99.1%
近畿地方	229,688,145	44	101.0%	99.8%
中国・四国地方	106,665,632	34	103.5%	99.6%
九州・沖縄地方	54,702,356	23	101.6%	100.7%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年度比 （全店）	前年度比 （既存店）
1～3店舗	9,318,076	47	97.6%	97.5%
4～10店舗	46,304,620	69	100.3%	99.5%
11～25店舗	121,436,398	65	100.0%	99.2%
26～50店舗	199,350,108	46	101.9%	99.6%
51店舗以上	679,839,766	43	102.8%	100.5%

※保有店舗数カテゴリーは2015年1月時点での保有店舗数による分類

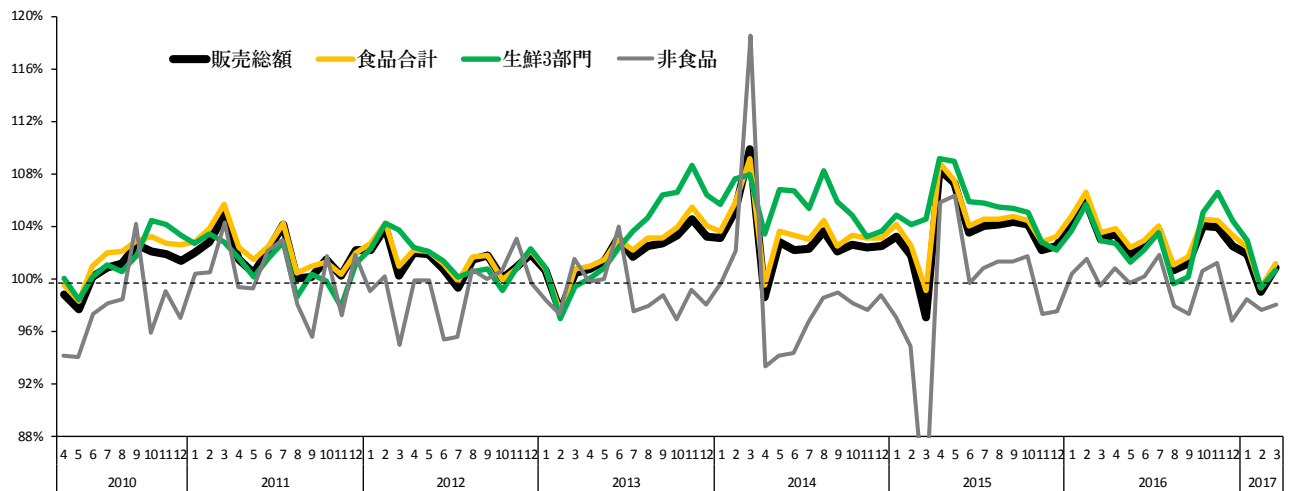
集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	1,024,142,737
----------	-----	-------------	---------------

※売上高は税抜金額

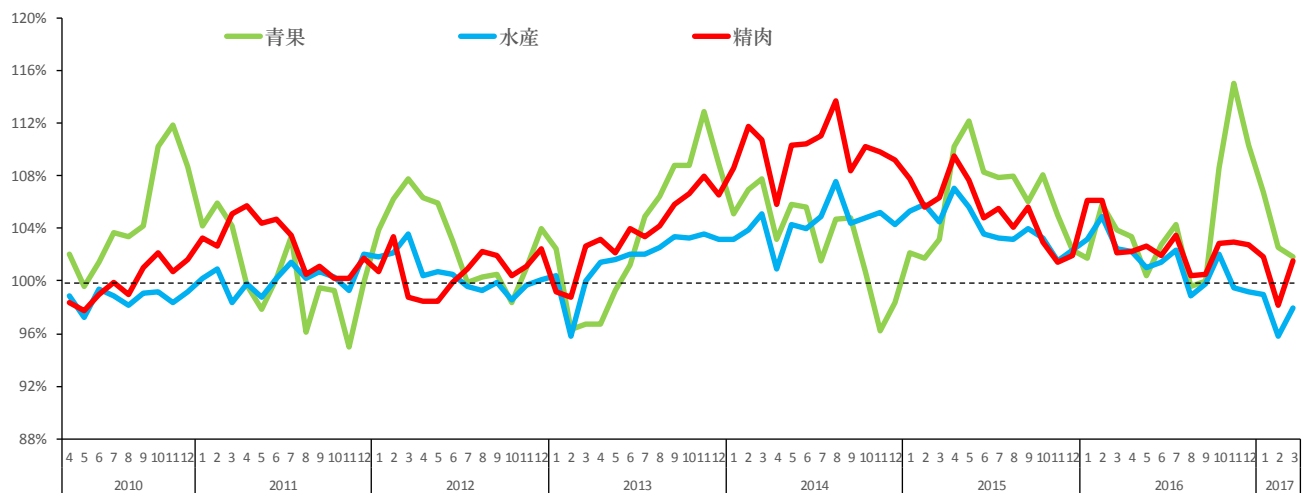
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計推移 2010年4月～2017年3月(前年同月比／全店ベース)

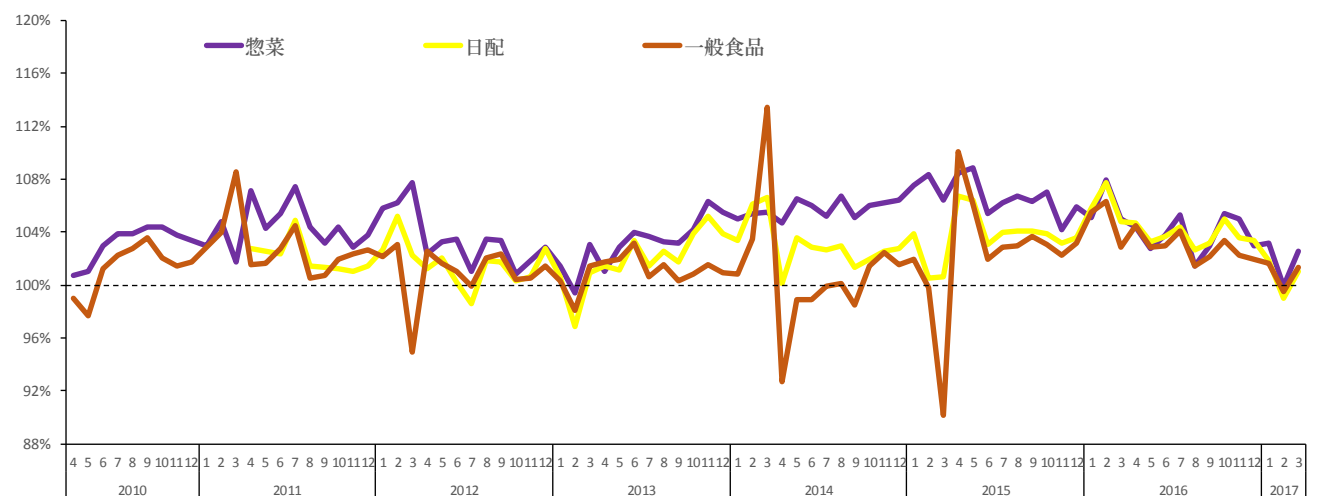
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2017年2月までは確報版による前年同月比、2017年3月は速報版による前年同月比
 ※2011年3月までは、「一般食品」に「日配」、「非食品」に「その他」を含む

2017年3月エリア別気候状況

1. 月の気温：西日本、沖縄・奄美で低かった。一方、北日本では高かった。

上旬：北日本で高く、東・西日本、沖縄・奄美で平年並だった。

中旬：全国的に平年並だった。

下旬：東・西日本、沖縄・奄美で低く、北日本で平年並だった。

2016年3月との比較：上旬は全国的にかなり低く、中旬以降もやや低い気温となった

	平年との比較（℃）						今年と前年との差（℃）		
	2017年3月			2016年3月（前年）			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	1.5	0.3	0.0	0.9	1.9	1.3	0.6	-1.6	-1.3
東北地方	0.7	0.3	-0.3	2.0	2.3	1.2	-1.3	-2.0	-1.5
関東甲信地方	0.5	-0.1	-1.5	2.9	0.8	0.7	-2.4	-0.9	-2.2
北陸地方	0.4	0.5	-0.4	2.7	1.1	0.5	-2.3	-0.6	-0.9
東海地方	0.0	-0.1	-1.2	2.8	0.8	0.6	-2.8	-0.9	-1.8
近畿地方	0.2	-0.3	-0.7	3.4	0.6	0.3	-3.2	-0.9	-1.0
中国地方	0.0	-0.2	-0.6	3.3	0.5	0.3	-3.3	-0.7	-0.9
四国地方	0.3	-0.5	-1.2	2.8	0.5	0.1	-2.5	-1.0	-1.3
九州北部	-0.1	-0.3	-0.9	3.3	0.1	-0.2	-3.4	-0.4	-0.7
九州南部・奄美地方	-0.9	-0.8	-1.2	2.4	-0.1	-0.9	-3.3	-0.7	-0.3

平年差

+2℃以上

+1℃以上

-2℃以上

-1℃以上

前年差

+2℃以上

+1℃以上

-2℃以上

-1℃以上

2. 月の日照時間：北・東・西日本で多かった。

上旬：西日本日本海側で多かった。一方、沖縄・奄美で少なく、北・東日本、西日本太平洋側で平年並だった。

中旬：北日本、西日本日本海側ではかなり多く、東日本、西日本太平洋側で多かった。沖縄・奄美では平年並だった。

下旬：沖縄・奄美で多かった。一方、西日本と北日本太平洋側で少なく、北日本日本海側と東日本で平年並だった。

2016年3月との比較：中旬はやや日照時間が多く、下旬はやや少ない日照時間となった

	日照時間 平年比（％）						今年と前年との差（％）		
	2017年3月			2016年3月（前年）			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	100	170	103	97	126	132	3	44	-29
東北地方	106	117	83	90	114	141	16	3	-58
関東甲信地方	112	116	105	97	81	127	15	35	-22
北陸地方	111	135	107	93	97	157	18	38	-50
東海地方	108	126	102	91	103	151	17	23	-49
近畿地方	110	130	103	104	104	153	6	26	-50
中国地方	110	137	104	96	108	148	14	29	-44
四国地方	115	137	84	97	114	146	18	23	-62
九州北部	117	135	82	101	116	132	16	19	-50
九州南部・奄美地方	102	106	94	118	123	127	-16	-17	-33

平年差

平年比150％以上

平年比125％～149％

平年比50％以下

平年比51％～75％

前年差

+50％以上

+25～49％

-50％以下

-25～-49％

3. 月の降水量：東日本日本海側と西日本でかなり少なく、北日本、東日本太平洋側で少なかった。

上旬：西日本ではかなり少なく、北日本、東日本太平洋側で少なかった。一方、沖縄・奄美で多く、東日本日本海側で平年並だった。

中旬：北・西日本日本海側、東日本でかなり少なく、北・西日本太平洋側で少なかった。沖縄・奄美では平年並だった。

下旬：東日本日本海側、沖縄・奄美で少なかった。一方、東日本太平洋側で多く、北・西日本で平年並だった。

2016年3月との比較：上旬と中旬はかなり少なく、下旬は多い降水量となった

	降水量 平年比（％）						今年と前年との差（％）		
	2017年3月			2016年3月（前年）			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	67	15	94	115	38	46	-48	-23	48
東北地方	60	63	97	75	33	40	-15	30	57
関東甲信地方	43	25	115	142	132	16	-99	-107	99
北陸地方	97	43	66	47	74	19	50	-31	47
東海地方	44	8	117	172	141	4	-128	-133	113
近畿地方	27	14	88	119	134	5	-92	-120	83
中国地方	41	25	87	106	77	5	-65	-52	82
四国地方	6	30	92	152	127	14	-146	-97	78
九州北部	16	52	75	115	56	23	-99	-4	52
九州南部・奄美地方	52	97	86	131	151	54	-79	-54	32

平年差

平年比150％以上

平年比125％～149％

平年比50％以下

平年比51％～75％

前年差

+50％以上

+25～49％

-50％以下

-25～-49％

気象庁ホームページ・報道発表資料「3月の気候」参照

平年値は過去30年（1981年～2010年）の平均

スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2017 年 4 月調査結果（3 月実績）
（2017 年 4 月 21 日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの 5 段階で評価
- ・前年同月を 100 とした当月の値を調査 ※2014 年 4 月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの 5 段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じて DI を算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DI は「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、
- ・2～3 ヶ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで 5 段階で評価
 - ・今後 2～3 ヶ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの 5 段階で評価

景況感 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じて DI を算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DI は「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

4月調査（3月実績）結果概況

景気判断 DI 現状判断、見通し判断共に小幅に改善も

3月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断 DI 現状判断は前月から+1.0の44.6、見通し判断は前月から+0.1の43.0となり、小幅な改善をみせた。

経営動向調査では、売上高 DI が-11.3、収益 DI は-10.9 と共に二桁のマイナスとなった。来客数 DI が-13.9 と2桁のマイナスで低迷しているほか、客単価 DI がわずかなプラスを示しているものの、1.1 と低迷していることがその要因としてあげられる。

カテゴリー動向調査は、青果相場の落ち着きがみられはじめるなど、全般的に単価が下落傾向にあるなか、前年より低い気温の影響も受け、惣菜 DI 以外はすべてマイナスとなった。特に不漁による品不足や相場高が続く水産 DI は-18.1 とマイナスが大きい。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は、ほとんどの DI が前月に比べ改善しているものの、小幅にとどまり、方向感のない動きとなっている。消費者購買意欲の現状判断が改善しているように足元の消費環境には悪化傾向はみられないが、長期傾向では下降トレンドが継続しており、今後の動向に注意が必要となる。（周辺地域景気動向 DI 長期傾向参照）

青果相場も落ち着きをみせているなかで、販売価格 DI が2か月連続でマイナスを記録し、客単価のプラス幅はわずかとなっており、来客数減をカバーすることが厳しい状況となってきた。特に畜産カテゴリーでは顕著だが、単価の上昇にむけた取組みを行う店舗と販売数量増にむけた取組みを行う店舗に戦略の二極化傾向がみられるようになってきている。外部消費環境に大きな変化が期待できないなかで、取組みの成果が好不調の可否を左右する状況をむかえている。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：**44.6** (+1.0)
前月：43.6

消費者購買意欲DI
当月：**45.1** (+2.0)
前月：43.1

周辺地域 競合状況DI
当月：**43.1** (+1.6)
前月：41.5

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：**46.4** (+0.2)
前月：46.2

見通し判断

景気判断DI
当月：**43.0** (+0.1)
前月：42.9

消費者購買意欲DI
当月：**44.0** (-0.1)
前月：44.1

周辺地域 競合状況DI
当月：**41.2** (+0.7)
前月：40.5

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：**45.4** (-0.1)
前月：45.5

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：**-11.3** (+6.1)
前月：-17.4

客単価DI
当月：**1.1** (-1.9)
前月：3.0

来客数DI
当月：**-13.9** (+4.8)
前月：-18.7

収益DI
当月：**-10.9** (+3.2)
前月：-14.1

販売価格DI
当月：**-0.4** (+1.0)
前月：-1.4

生鮮品仕入原価DI
当月：**4.8** (+0.8)
前月：4.0

食品仕入原価DI
当月：**2.0** (+2.6)
前月：-0.6

カテゴリー動向

青果DI
当月：**-0.5** (-5.0)
前月：4.0

水産DI
当月：**-18.1** (+5.7)
前月：-23.8

畜産DI
当月：**-8.6** (+8.6)
前月：-17.2

惣菜DI
当月：**1.6** (+8.2)
前月：-6.6

日配DI
当月：**-9.0** (+5.7)
前月：-14.7

一般食品DI
当月：**-8.3** (+3.7)
前月：-12.0

非食品DI
当月：**-14.3** (+0.8)
前月：-15.1

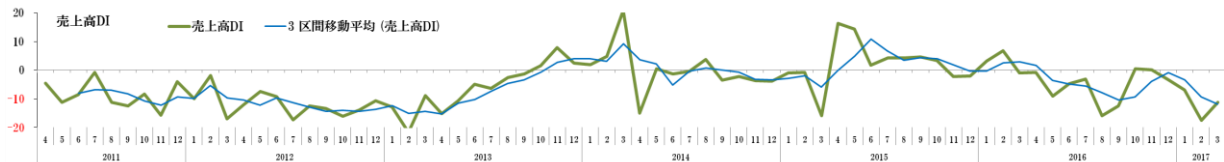
○ 内は前月 DI との増減、赤字はマイナス

4月調査（3月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高 DI

うるう年の影響から反発も1月水準まで回復せず

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	15.2	49.0	26.3	9.6	0.0	-17.4
売上高（当月）	9.2	44.1	29.2	17.4	0.0	-11.3



2. 収益 DI

うるう年の影響から反発も1月水準まで回復せず

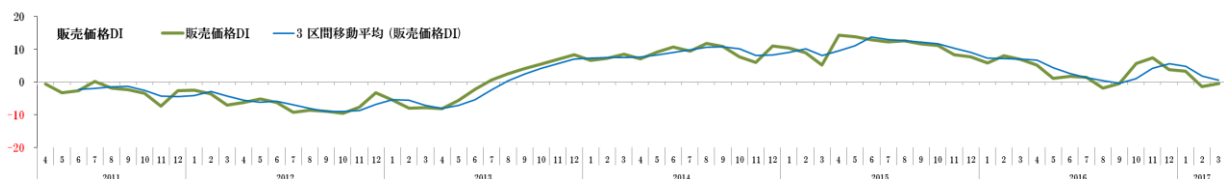
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	12.2	43.1	34.5	9.1	1.0	-14.1
収益（当月）	10.4	39.1	34.9	15.1	0.5	-10.9



3. 販売価格 DI

2ヵ月連続のマイナスを記録し、下降傾向が続く

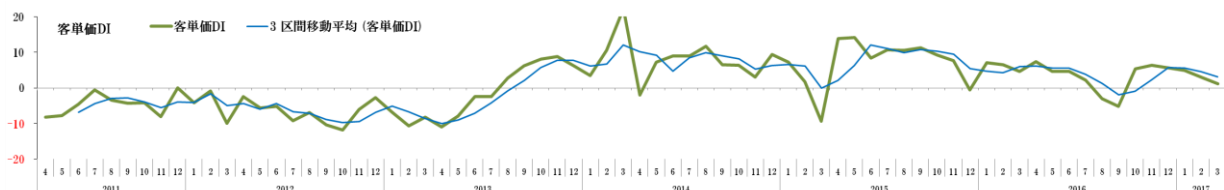
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	1.5	18.7	64.1	15.2	0.5	-1.4
販売価格（当月）	0.5	20.6	58.8	20.1	0.0	-0.4



4. 客単価 DI

わずかにプラス圏を維持するも、頭の重い状況が続く

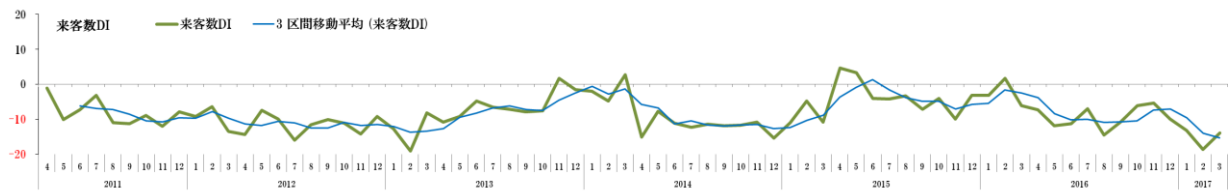
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	2.0	17.2	48.0	32.3	0.5	3.0
客単価（当月）	0.0	24.0	47.4	28.6	0.0	1.1



5. 来客数 DI

やや持ち直しも4ヵ月連続の二桁マイナスを記録

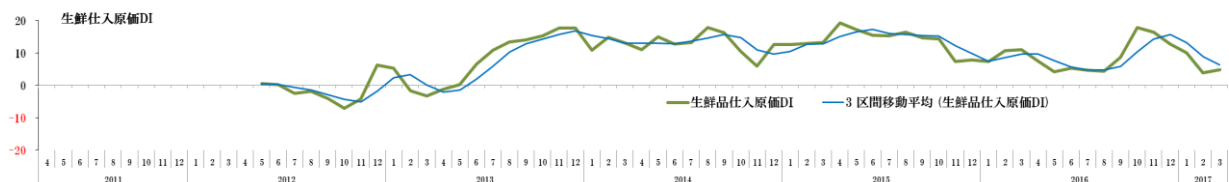
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	13.7	51.8	29.9	4.6	0.0	-18.7
来客数 (当月)	10.3	46.9	30.9	11.9	0.0	-13.9



6. 生鮮仕入原価 DI

当月は横ばい推移もプラス幅は縮小

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	4.6	10.2	51.5	32.1	1.5	4.0
生鮮仕入原価 (当月)	2.6	9.9	53.9	32.5	1.0	4.8



7. 食品仕入原価 DI

2013年2月以来のマイナスを記録するも当月はやや上昇

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	5.6	8.1	70.1	15.7	0.5	-0.6
食品仕入原価 (当月)	2.1	8.3	69.3	20.3	0.0	2.0

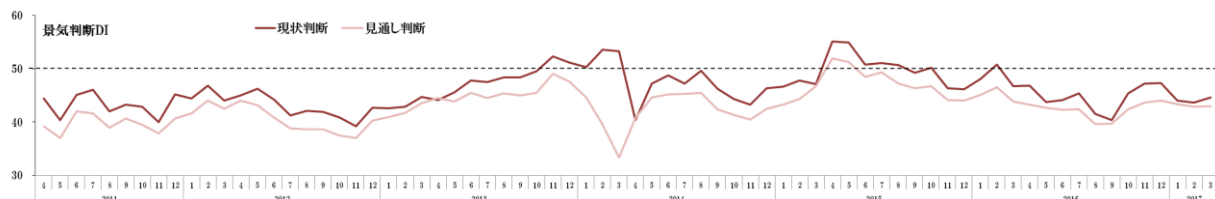


Ⅱ．景況感調査（2011年4月～／周辺地域景気判断のみ2010年4月～）

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断はやや改善、見通し判断は横ばいで、方向感はみえず

回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	0.5	30.5	63.0	6.0	0.0	43.6
【現状】景気判断（当月）	0.5	27.7	65.1	6.2	0.5	44.6
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	2.5	29.0	63.0	5.5	0.0	42.9
【見通し】景気判断（当月）	2.6	28.6	63.3	5.6	0.0	43.0



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断はやや改善、見通し判断は横ばいで、方向感はみえず

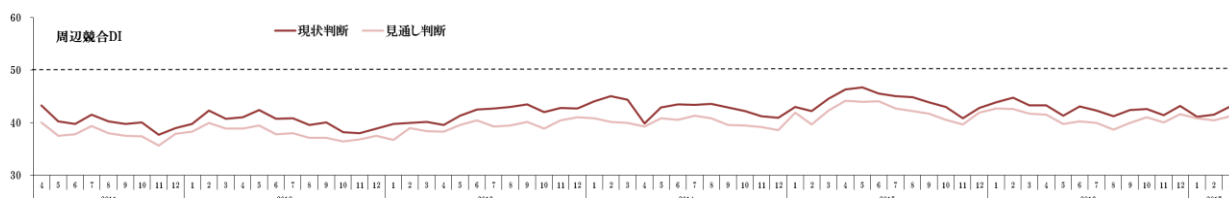
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	1.0	29.5	65.5	4.0	0.0	43.1
【現状】購買意欲（当月）	0.5	23.4	71.6	4.6	0.0	45.1
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	1.5	25.0	69.0	4.5	0.0	44.1
【見通し】購買意欲（当月）	1.0	25.0	70.9	3.1	0.0	44.0



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通し判断共に弱含みで改善の兆しがみえず

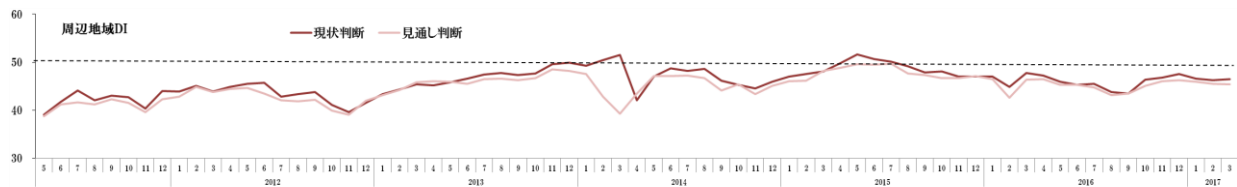
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	3.0	29.5	66.0	1.5	0.0	41.5
【現状】競合状況（当月）	2.0	27.4	66.5	4.1	0.0	43.1
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	4.0	32.0	62.0	2.0	0.0	40.5
【見通し】競合状況（当月）	4.6	29.6	62.2	3.6	0.0	41.2



4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

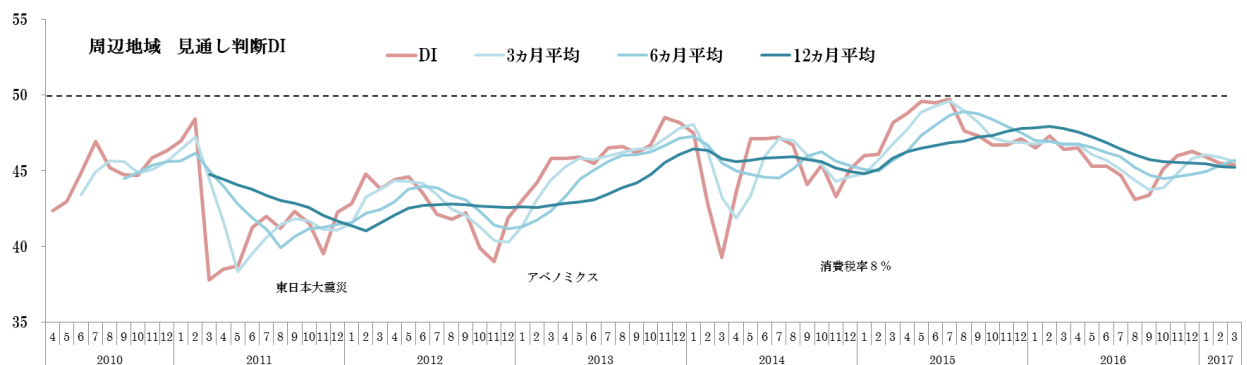
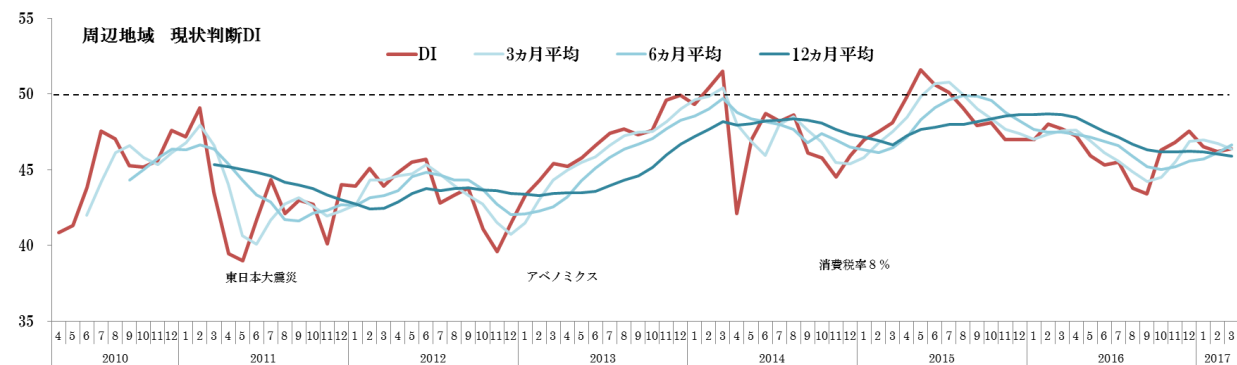
現状判断、見通し判断共に横ばい推移

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気（前月）	0.0	17.1	80.9	2.0	0.0	46.2
【現状】地域景気（当月）	0.5	16.8	79.7	2.5	0.5	46.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気（前月）	0.5	19.0	78.5	2.0	0.0	45.5
【見通し】地域景気（当月）	1.0	18.5	79.0	1.0	0.5	45.4



長期傾向（2010年4月～）

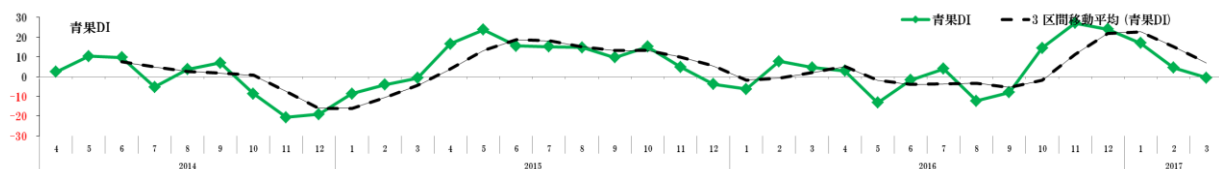
2012年11月以降改善傾向を続けていた「中核店舗周辺地域景気判断 DI」は、2014年4月の消費税率引き上げの影響を受け大きく下落した。5月に一旦持ち直したものの、6月～8月まで横ばい推移、9月に再び悪化した。その後、年末から6ヵ月連続で改善し、2015年5月には調査開始以来の最高水準まで改善をみせた。これをピークに6月以降悪化傾向が続き11月は下落の速度が早まった。12月～2月は横ばいで推移したものの、2016年3月以降悪化をみせ、8月には大きく下落した。直近9月に下げ止まりをみせ、10月は一転して大きく改善し、12月まで小幅な改善が続いた。2017年に入り、方向感なく横ばい推移が続いており、3ヵ月、12ヵ月移動平均はマイナスでの推移となっている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果 DI：-0.5（やや不調）

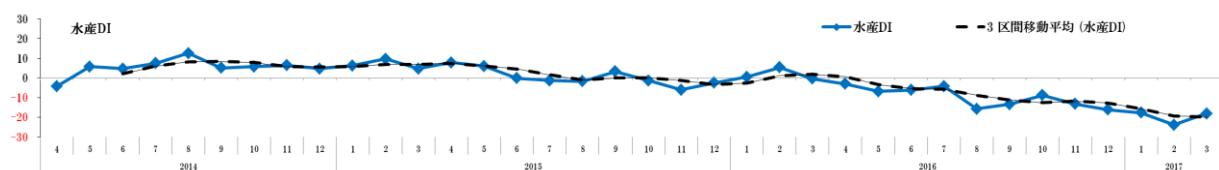
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	5.8	20.1	33.9	30.7	9.5	4.5
青果（当月）	4.9	31.4	29.2	30.3	4.3	-0.5



全般的に野菜類は、相場が低下傾向にあり、入荷数量が増加したことで、販売数量が増加したものの、単価が下落したため、相殺され前年並みとなった店舗が多くなった。葉物類は月の後半から相場高となった地域もみられる。トマト・キュウリ、ピーマンなどのサラダ関連は相場安の影響が大きく振るわなかった。前年より低めに推移した気温により鍋物需要が高まり、葉物類やきのこ類などの動きがよかった。果物では、値ごろ感のあるいちごや柑橘類が好調だが、前年好調だったバナナは不調。カットフルーツは引き続き好調となっている。

2. 水産 DI：-18.1（不調）

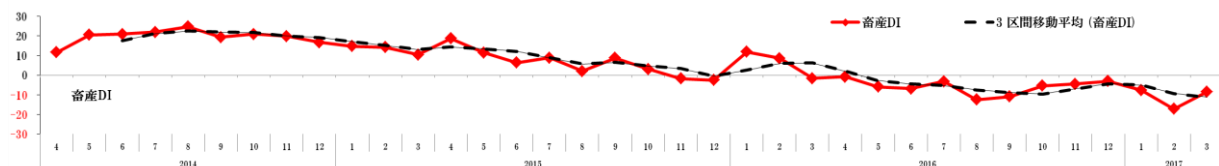
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	25.4	49.2	21.2	3.7	0.5	-23.8
水産（当月）	16.9	49.7	22.2	11.1	0.0	-18.1



引き続き生魚の入荷が少なく、相場も高値で推移していることに加え、前年より低い気温を記録した地域では、刺身類が伸び悩みをみせた。いか類は入荷減と相場高で落ち込みが厳しく、代わりにタコがよく動いた。不漁により、旬魚であるいかなごやサワラを売り込めず、養殖のぶりやかれい、うなぎなどの売り込みを行っている店舗もみられる。ひな祭りやお花見用の商材は比較的好調に推移した。前年特需を記録した海藻類は反動で不振となった。

3. 畜産 DI：-8.6（やや不調）

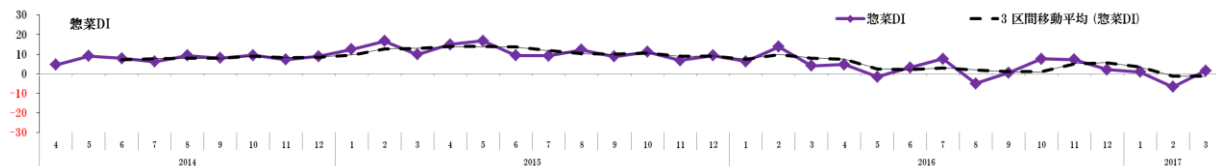
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	15.3	48.4	27.4	7.9	1.1	-17.2
畜産（当月）	10.1	38.6	28.6	21.2	1.6	-8.6



和牛は相場高が続いているなか、切り落としを中心とした輸入牛の売り込みを強化する動きと国産牛を中心に販売する店舗に戦略が二極化する傾向が続いている。豚肉については低価格で値ごろ感を打ち出しており、販売数量増加の有無により好不調が分かれている。ブラジル産の報道により、鶏肉は不振となった店舗が多い。

4. 惣菜DI：1.6（やや好調）

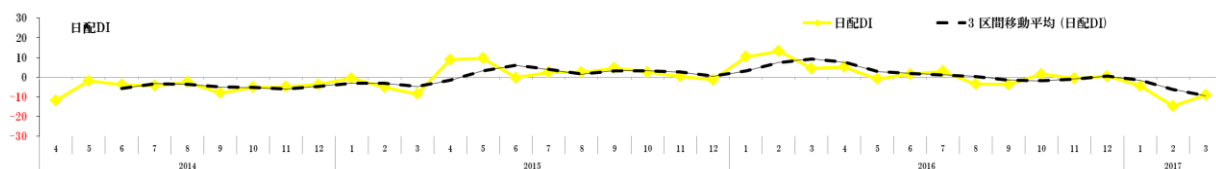
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	8.0	33.0	38.3	19.1	1.6	-6.6
惣菜（当月）	5.9	20.9	39.6	28.3	5.3	1.6



桜の開花が遅れ、お花見需要が4月にずれ込んだ地域もあったため伸び悩みをみせた。ひなまつり商戦はちらしずしなどが好調であったが、前年との比較で気温が低く、生寿司関連やサラダ関連は不振であった。筍など季節性のある弁当や新メニュー開発などの取組みにより成果をあげている店舗が多い。お弁当・お惣菜大賞受賞商品が好調に推移したというコメントもみられた。

5. 日配DI：-9.0（やや不調）

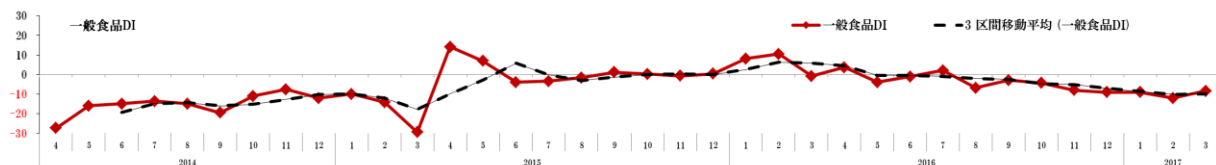
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	13.2	42.6	34.7	8.9	0.5	-14.7
日配（当月）	7.9	39.2	34.9	16.9	1.1	-9.0



前年との比較で気温が低く、麺類などのホット商材は好調であったが、飲料や前年からの反動もある機能性ヨーグルトなどが落ち込みをみせた。メディアで取り上げられた甘酒や豆乳や牛乳などが引き続き好調。低迷の続くパン類は一部に回復傾向がみられた店舗もあった。漬物や練り物などは好不調がわかれている。他業態との価格競争の厳しさへの指摘が散見された。

6. 一般食品：-8.3（やや不調）

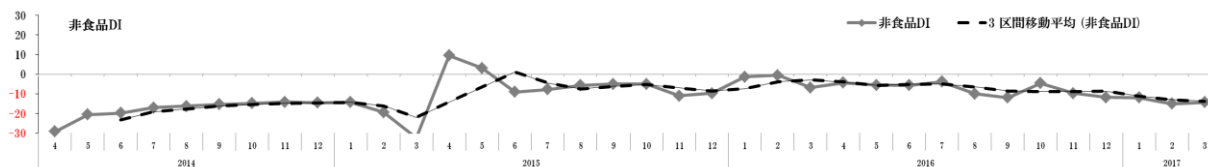
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	9.0	43.4	34.4	13.2	0.0	-12.0
一般食品（当月）	5.9	39.6	37.4	16.0	1.1	-8.3



花見時期のずれ込みと前年との比較で気温が低く、飲料やアルコール類は不調となった一方で、ホット商材（スープ類）やカレーなどは好調となった。前年より単価の上昇している米は引き続き好調となっている。前年好調の和風調味料は反動で不調、冷凍食品を好調とする店舗も多くみられた。

7. 非食品DI：-14.3（不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	14.5	43.0	32.8	7.5	2.2	-15.1
非食品（当月）	12.8	43.9	32.8	8.9	1.7	-14.3



前年の駆け込み需要にあったタバコの売上が落ち込んでいるほか、ホームセンター、ドラッグストアなどとの価格競争が激しく低迷が続いている。前年より低い気温により春物衣料も不振となった。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20	好調： 20 ～ 10	やや好調： 10 ～ 0
やや不調： 0 ～ -10	不調： -10 ～ -20	かなり不調： -20 ～

2017 年 4 月調査（3 月実績）キーワード TOP3

1. 前年より低い気温
2. 花見時期の遅れ
3. 単価の下落と販売数量

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

3 月実績速報版 197 社
2 月実績確報版 200 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp